

赤い羽根共同募金

令和3年度 共同募金実績内訳

清水町内会	5,707世帯	1,712,100円
清水地区民生委員・募金活動	341件	758,999円
清水地区民生児童委員	51名分	288,000円
清水地区社協関係分		47,430円

合 計 2,806,529円

募金ありがとうございました

協力会員募集のお知らせ

清水地区社会福祉協議会は、ボランティアに関心のある方、地域助け合い活動に参加してみようと思われる方を募集しています。いま《地域のつながり》があらためて注目されています。

地域の中で《こんなこと》必要だと思いませんか？

楽しく、明るく、ボランティア活動をしませんか。



お問 清水地区社会福祉協議会援助部長
合 門屋 淳

地域包括支援センターとは

※高齢者の方々の身近な相談窓口です

- ◇高齢者の方が、住み慣れた環境の中で暮らし続けるための相談窓口です。
- ◇健康、医療、介護などなんでもご相談ください。
- ◇相談内容に関しては、秘密を堅く守ります。
- ◇相談は無料です。



名 称 松山市地域包括支援センター味酒・清水
住 所 松山市清水町3丁目15
開館時間 月～土（8時30分～17時30分）

電 話 (089) 911-1135
休 日 日・祝日、12月30日～1月3日

ふれあい教室 会員募集!!

		火	水	金	備 考
午前	講座名	フォークダンス	茶 道	コーラス	書 道
	時 間	10:00～11:30	10:00～12:00	10:00～11:30	10:00～11:30
	開催週	第1・3	第1・3	第1・2・3・4	第1・2・3
	会 費	¥1,000	お菓子代¥400 ¥1,000	¥1,000	本代¥700 ¥1,000
午後	講座名	現在募集中	フラダンス	太 極 拳	絵 手 紙
	時 間	13:30～15:30	15:30～16:30	15:30～16:30	13:30～15:00
	開催週	第1・2・3	第1・3	第1・2・3	第2・4
	会 費	¥1,000	¥1,000	¥1,000	¥1,000

お問合わせは 「清水地区社会福祉協議会」 TEL 916-9179

ふれあい教室募集!!

ふれあい教室は9教室で運営してきましたが、4月現在で、8教室となっています。枠があきましましたので、新しい教室を募集します。囲碁・将棋・生け花・俳句・健康麻雀など何でもかまいません。仲間を誘って教室を立ち上げてください。なお、審査をさせていただきます。

お問合わせ TEL 916-9179

夢と希望を抱いて旅立つ季節、例年だと学び舎から元気に合唱する声が聞こえるはず。今は多くの行事、式典が縮小されて寂しい限りです。今回大勢の方の心のこもった「手作りの卒業リボン」とともに紹介させていただきます。コロナ禍の中だからこそ「ふれあい」や「つながり」を大切に「力」がきつと実を結ぶと思います。今まで普通にできていたことができない中で、ピンチをチャンスに、そしてコロナが終息すれば、きっと豊かな関わり合いが生まれると信じます。

啓発調査部長
稲見 敦子

編集後記

第66号



しみずの福祉だより

清水の現状 (令和4年3月1日現在)

人	口	22,499人
65歳以上		5,842人
高齢化率		26.0% (25.96%)
世帯数		13,208世帯
一世帯平均		1.7人

(住民基本台帳による)

清水地区社会福祉協議会
編集・発行 会長 横山 定雄

いきがい交流センター
しみず祭についてのお知らせ

「いきがい交流センターしみず」は4月15日に20周年を迎えます。この大きな節目をいつも活動を支えてくださっている地域の皆様と共に祝いしたいと考えておりましたが、新型コロナの感染防止のため、4月の開催を断念することといたしました。なお、今後の感染状況をみながら、今年度中に開催できるよう準備をしております。「しみず祭20周年記念祭」には、笑顔でお会いしましょう!!



手作りの卒業リボンとともに!

3月、凛とした姿で清水小学校を旅立った卒業生。その一人ひとりの胸を彩った「卒業リボン」は、これまで子どもたちの学びと成長を見守り、応援してきた地域の皆さんと学年担任、6年生とが協力して製作した作品です。



リボンのパーツと水引細工（あわじ結び）は、学年担任、清水地区社協役員や協力会員、スタッフが製作を担当。6年生は、缶バッジに思い思いのイラストや文字を描き、リボンと水引のパーツを組み合わせ、世界に一つだけの「卒業リボン」を完成させました。新型コロナ感染予防で卒業式には参加できませんでしたが、気持ちが通じ合った春です。

福祉体験学習

総合的な学習の時間「やさしい町清水」
～高齢者の疑似体験をしよう～

清水小学校5年生の高齢者疑似体験の授業に、いきがい交流センターしみずを代表して地区社協会長含め6名と友達しみず利用者等3名で、お手伝いしました。子どもたちは元気よく、積極的に取り組んでいて、2人1組で互いに装具を付け合ったり、高齢者役のお友達を介助しながら、上手に体育館を一周しました。また、手袋を付けて折紙をしたり、箸を使っておはじきをお皿に移したりして、加齢による身体（筋肉・聴力など）を体験した後、友達しみずの方のお話を聞いて、高齢者の気持ちの理解に努めていました。

子どもたちは、身のまわりの人たちにやさしく接することや、積極的に行動することの大切さを身をもって感じてくれたようでした。「やさしい町清水」の担い手が確実に育ってくれています。



『福祉講座』を開催しました！

令和3年11月12日、福祉講座「もてなしの心」を開催いたしました。コロナ禍の中ではありましたが、感染対策を万全に、人数を制限して行いました。講師は菅田顕様（元清水小学校校長・ロシア兵墓地保存会会長）です。

ロシア兵墓地の歴史や、プロジェクターでの貴重な映像を交えながら、なぜこんなに多くの兵士が松山に送られてきたかなど…熱のはいったお話でした。

また、ロシア兵士がいかに松山で大切に育てられたか…市民と自転車競走・中学生とボート競争・運動会見学・道後温泉入浴・外出や買い物は自由…など大変興味深いお話でした。絶えることなく長きに渡り清掃活動が続けている勝山中学校の生徒さん、そして保存会の皆さんの奉仕活動により、墓標は清々しく、故国北へ向き凛として佇んでいます。

捕虜の手厚い待遇や今も続く供養には、四国の人々のお遍路さんへの「お接待」の心があらわれているような気がします。



《コミュニティ花壇》

清水小学校北校舎前の花壇、いつも季節のきれいな花が咲き、訪れる人々を迎えてくれます。

毎年4月の第3日曜日に開催される「しみず祭」には、清水地区の花であるチューリップが一堂に咲き、地域の皆さんをあたたく歓迎してくれています。これも、しみずサポートボランティアOBの方や学生さんの日頃の行き届いた手入れや開花時期を調整する努力のたまものだと思います。



平成19年当時

令和3年12月

いきがい交流センターしみずが開設した当初は、年2回友達しみず利用者の皆さん、清水小学校3年生、協会員で楽しく賑やかに植えるのが恒例でした。今は、しみずサポートボランティアOBの方、学生さんのお世話のおかげで、楽しませてもらっています。皆さまからの『お花の募金』で花壇を花いっぱいにしましょう！！



まだまだ現役です！

清水小学校子ども見守り 西側 連三郎

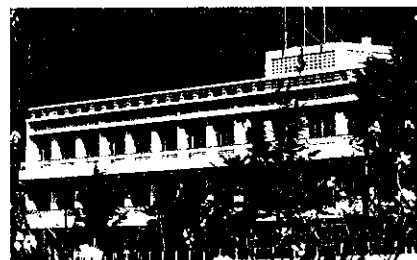


私は自営業を行っていますが、松山東交通安全協会、松山市交通指導員清水地区の交通指導員として五十五年が経ち八十七歳になりました。

本町フジ前の交差点は、本町電停の関係で高校生、高齢者が多く、歩行者青信号でも横断歩道に停止する車があります。また、山越から本町陸橋を渡り、通学する子どもたちの合流点でもあり非常に危険な交差点です。普段は二列、雨の日は一列をよく守っています。十年間毎日安全に誘導し、集団登校の最後の子どもたちを、伊予銀行城北支店前で先生方に引き渡します。

途中の交差点では、当支部員が六名、毎日、自発的に子どもたちを見守ります。十年前の交差点には、たばこの吸い殻やゴミが多く、拾いながら見守りをしましたが、今では樹木や自転車のはみ出しもなく、落下しそうな大型看板（子どもの集合場所）古く錆びた超大型カーブミラーの撤去などで、安全安心な通学路になりました。町内の皆さんのご理解とご協力のおかげです。松大と勝中の交差点（元玉井文具店前）は、道路が変則的で下校の子どもと大学生の自転車で大渋滞しています。

我々と学校、城北交番とで協議をし、少しづつ安全安心の方向に進んでいます。今回、奇しくも令和三年度に松山東警察署長、県警本部長、交通安全県民総ぐるみ運動愛媛県本部長中村知事より感謝状をいただきました。これは私にではなく交通安全清水支部全員がいただいたものと思っています。これを糧として「住みよい安全なまちづくり」のために貢献できるような、まだまだ元気で頑張りたいと思います。



平成7年当時の中島町立中島中学校



「ふるさと松山学」で「ふるさと」の発見について語る筆者

今から二十七年前、平成七年当時、筆者の私は中島町立中島中学校校長でした。その頃の話です。M子という要保護家庭の三年生がいました。M子はおばあさんと二人で生活しており、夕飯も学校から帰ってつくり、勉学に励むなど、まさに刻苦勉勵する生徒でした。彼女は家庭の都合もあり、地元の松山北高等学校中島分校に進学することとなりました。私は、特にM子のことが気になり、当時の分校長（教頭の安永先生）にお願いしました。「M子は、分校卒業後、愛媛大学に進学したいという不退転の決意をもっている。大変ですが、ぜひご尽力いただきたい。」M子が分校進学後、安永先生が松山に出張の際、数学の大学受験用参考書を彼女にプレゼントしてくれたということや、分校の先生方が丁寧な個別指導をしてくれた等々の情報が伝わってきました。M子の分校卒業式の数日後、仲神先生（分校長は安永先生から変わっていた）が拙宅に来てくださり、次のように言われました。

「M子さんを昼の教育学部へ合格させることはできませんでしたが、夜間の法文学部には合格させることができ、先生との約束の半分は果たすことができました。M子さんは松山北高校の事務員のアシスタント（PTA事務等）として四年間採用することになりました。本校の近藤校長先生のご配慮です。」

M子さんの松山での生活は育英会奨学金と北高の事務の日給でなんとかなりそうです。」

私は黙って頭を下げました。

M子の家庭状況までの確に把握し、本校の事務員のアシスタントとして四年間採用し、大学を卒業するまで生活を保証してくださる校長先生の温かいご配慮に對して、涙する思いでいっぱいでした。

中高連携という言葉があります。また幼小連携、小中連携という言葉もあります。

幼稚園と小学校が、小学校と中学校が、そして中学校と高等学校が、いかに望ましく連携することができるとかが問われています。その典型的な事例として、今回のことを記しました。当時の安永・仲神分校長さんを中心とした分校の先生方の、一人ひとりの生徒を大切に支援する心も書き残しました。

このような温かい実践事例は、どの中学校や高等学校にもあることだと思っています。

元松山市教育委員長
元松山市教育研修センター

顧問

金本 房夫

語り継ぎたい ふるさと松山の心 8

こんなにも温かい
ご配慮があつた。
望ましい中高連携を考えるー